豐川詣 猫振 笑談滕栗毛

菅沼左膳 編輯

一

A790

桂林舎大人編

猫狐
夢門話
笑話膝栗毛

三馬
主人

48-8010

猫狐
夢門話 笑話膝栗毛

序

明らかに治る年も十四つまり七のとい言葉生
ゐ花をろとをふ人心うかれて出る夢門猫と狐ゐ
一杯ふ寄て徳兵衛東さ〻今日をたれなる源氏
選見てわのひあつ道中記三編〻笑話の
場るとチョイと利イた客宮様さ〻〻〻〻〻〻〻〻
門柳狂歌地獄さへ出るまの世界助平

繪りうけても繪らぬ改出んとても脇の一きえ来撫き葉のあや綿よ色む宝珠の玉裏
笠小樋以ろくれ宮を愛る福の神福禄の
代と陸船尾天いのもとを拝る福徳と蒙ふり
第ふ恵沢頂戴第ふ門ふい来る福を受て
コテく金銀へ絶て枯ぬ後の謎哈いへさ孤
に借らけてあゆて後ろんるれうしさ年
題のかけごゆとうさぬやう伸信ゆと拝

肝要と序文にかくを述る事爾り

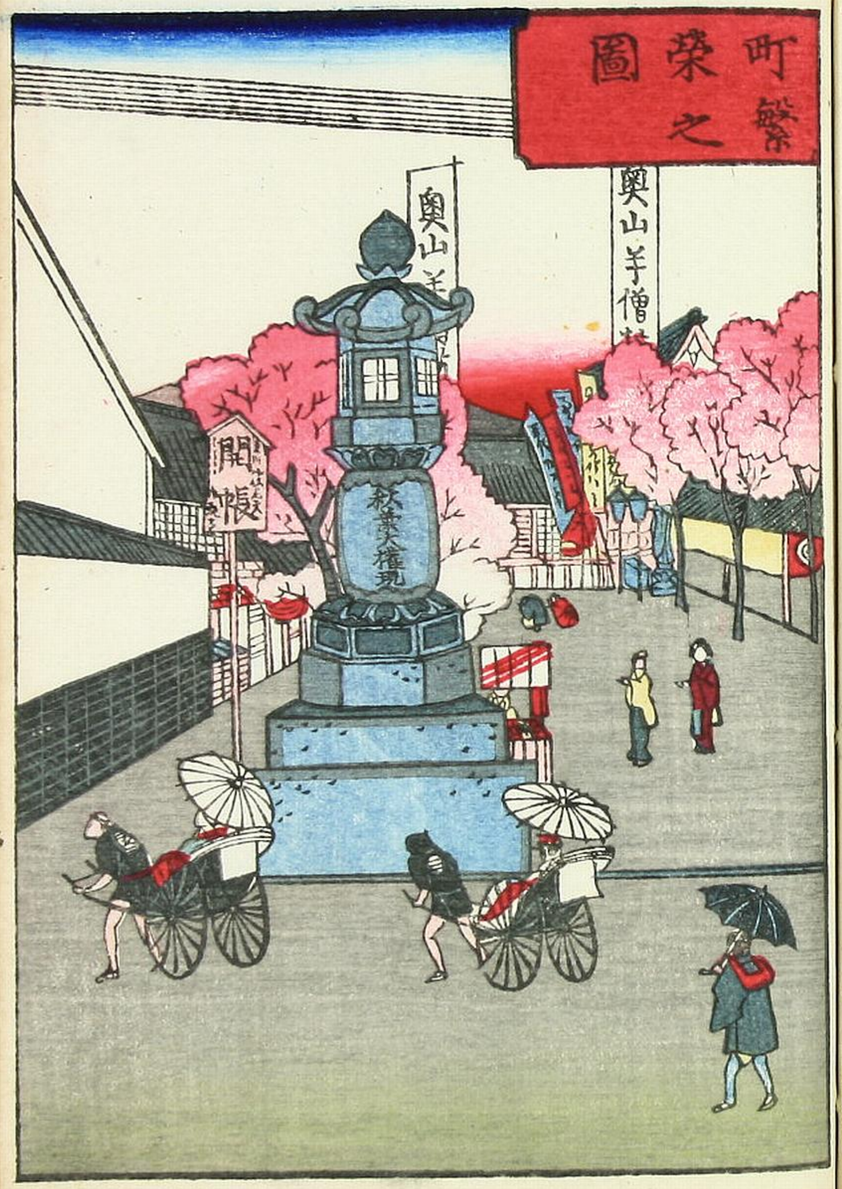
中の四月末ゆ日

蒙府両町の隠士

桂亦舎一牧誌

東海道岡崎驛傳馬

町繁榮之圖



物部
堂門信只天誠徳栗毛

根石原　桂林舎一枝著

君の代は最も静かに治まて開ゆく世の有がたき
綱しめ関もおゝ堰しゝ山い堰ぬき川まい橋掛てぞ
渡せる人の身は自然の影も隔なく広き恵　大君の
政事隈なく照せる恵に漏る者なき民草の
繁へ栄の所きへ甚名も高き国時の僧言なき

里の横路九尺或百九家あるゝ拵に飽ぬ樂
隠居家にゆくねど矣しくいあらぬ家
恥の蔭先祖の蔭い家沿ふ一つ家智い
戈吉よ讓と身い家に住居して世ふ時花い
及ぶ少ど思らぬ力を加せぬ家の事を知る風
拍樂家と家横でブツつけ書れ表札よ
知まて利イ太郎沿い孫生の赤ん日春れ日長
の新さんもさ〜迎む時い十時ゑ鶏飯仕舞

蔓延公活さるさん嬉〜と居さ仕ふ引きる
打ゝ〜ゑく来る人い回し仲間れ寄り助とそ拵ん
で蔓延横長者「ハイモシ利イ太郎さんい在宅
家ゝ」「ヘイでゝ様「イヤとゝれて何ンのなに
がしと名のるゆゝ方時郎でいご世〜せん〜たゞ
産い家ものでゝ牙い弓折し矢作川「ヲイ多ゞね〜
かゝ通てゝッせ〜「何通れ高ゝバ色〜ぐされ
おす〜ろくもね〜這入ゝ孫くゝ「太郎拵いさゝ

極楽寺

春秋をあそぶ人
命の取樂しむも
永君の代乃
無事を祈り奉る
元足

「ヱヽくでくが来る公今日い何家へ出かける「イヤ」
夜後ゲムツて鯉く見まで云外の新ら色い姉ぐ
らふ「ヱアレガ云外か「さうよ「ヘン一外ふも今
これね〳〵それみ分いち折〳〵矢作川とい「そりヤア
組弼〳〵「隅田川ぢやアあで書源長云源ごそと
でくみいたごくくち折〳〵矢作川サ金森菅生
川なふいくれど陽くきこ孫〳〵矢作川さ
その矢作の橋云まみでち折〳〵と云ぶた

のよ何と才ゑだらふ「ムヽあのヽ〳〵ア八ヽヽ
イヤ時ふ何時さロウ「サウヨ弼家の和尚さ「ハア十時の
「おめ〳〵今ゑで揚さのう「さうよおらア昨日豊川
めくりをして大茶那そとで今まで〳〵グッサリとやられ
御〳〵出ん刹お目ざめで弼腹を出ふと所よ「ムヽそり
ヤア能つさの運いぶれだつ「十二連寺〳〵よ家ハソレ
一回目傳言所の孤チキが出ふけを着とサア徒〳〵
成〳〵ふ俄み穴玉〳〵孤のけとあふ孫イていつさのサ

「ハア志ゝ」いなな古狐でもおめへにつられちやアこま
るぞらふアハヽヽ志ゝ」甚志やアこの連中ゞ系統
のりふい狐志やねへ猫ごとだの「さゝよ甚に
乃中あそこ家で粗末や柳橋を出てゝ道
の記といふ物をこせへらく来さかふ陸奥おめへ
「ハア成程実いまつちも猫ンごゞ蚤ひるすい狐
ぜおめへふ嘆かと思つゝ来さのごゞ嘆して使せ
こまへ「き嘆せよふエヘン江戸の東言葉宗

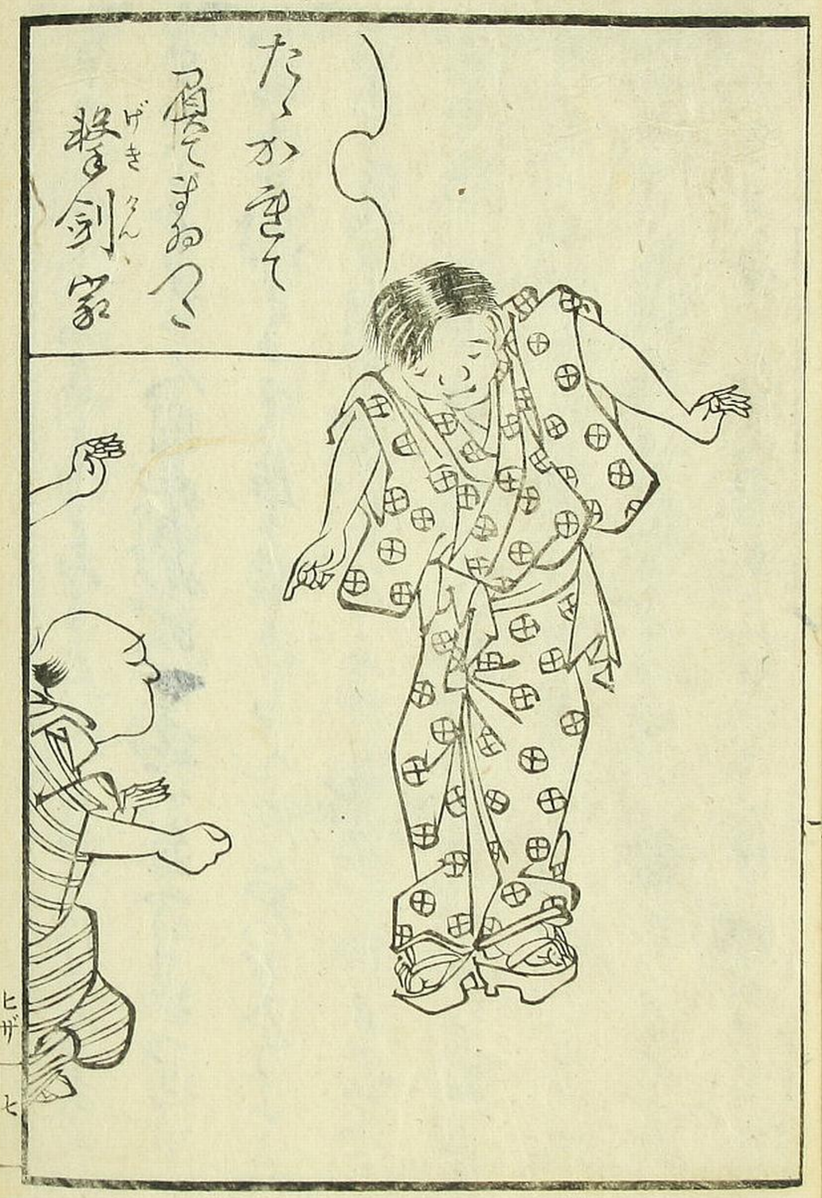
きさまの記憶り雨もポロ〳〵降そゞろ降入なゝ
狐テキと猫連揃ふおゝ皆甚ちれ老やこのさ
思ひ〳〵のきりたて衣裳回し日傘を一杯て
さゝつゝねる柳暮宿眠まばゆく雲出る車の
音ゴリフンぐと梅ゞ香ります靡ゞ蓋れ薫り梅の
花ふにゆ見せて柳の枝ふ嘆たる嬢ゝ容と
数ひあれ小野ふ所ゝ揚平娘ゝヲッと遊ゝさゝう
でない近の隣の院北大師代ふ海り嬢已の化身

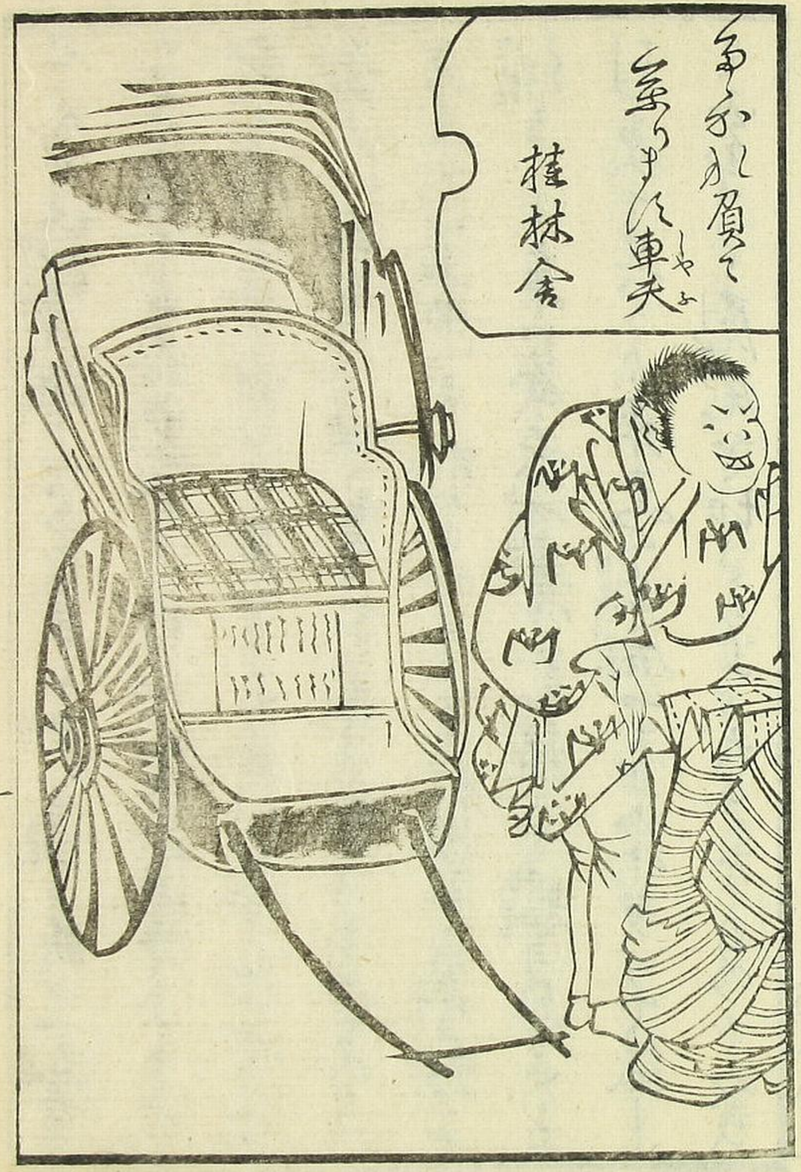
ぞと云へバゾット身の毛がよだつ玉藻の前にたとら
ざる是何所の玉揃ひ延き髪毛に吹風も揺元
きゝき鈴懸ちらつかせしきゝ緋縅の鎧着て
引出し数寄の車おしあふひ形り形方ゐい人の山
天へも光る両所や感気揚へと車まさへを
見取掃ふ車さまき大を投るもおしあて人家離れ
て鎧の板形しバ鼓を見一ト筋の縄まにこそ引き
ゐる「ヲイ〳〵そこまでいろいろ隙て居てアヤ

したゞこ鉢にいろ〳〵ぼて〳〵事がゐるかゝよ
「そ吹て〳〵とん何と「サレバサヨウちもおとうひの鉢
面所まで来るゆゞ着て行やゝ加ゞざわ〳〵人ゑ
ゞゝてそりや来る今来るア〳〵狐を馬にのせとゐふ
事い吹イさゞアノ何丈らの狐や猫ゞ車で行といふ
しいるゆゞといふかゝろちゞ見ふみやアこいつ大方
鉢ゝ知ゝらゝでも豊門板の開帳〳〵拵出に残りやけ
の姿さらつと倣て居るとゴロ〳〵とやつて来ゑで

番と大邊（ごろう）例の人にモシこれゞ狐で今り弁ら
アリヤアお妓さんドやア有ませんと呼イこそこその
人のいつにやアおまへい化されて居なきるかゞ微
見毛ゞ嚙をぬつてゆらふゞこそ狐で三ゞい猫も
居り弁といこれさでハテナコロちゞ眼ゞふいどふえても
猫や狐といこへやせんゞ何ど変まら淫古ゞ今り弁ゞと
いつて有弁ともこ生猫や狐の淫古ふきみん五軍
に勢て行ゞ尾尾をきこられやーたァハ〳〵と笑ひ

るのゞら向へいつこゞシテみると獣のやうにも有ゞえ
さ而いまるものの人間義賊妓に邊へ狐へやつぱり
おいらゞ化さまして居るのゞらきらんとこいつゞ今ゞ
ゆらゆへテイヤ嗣〳〵トンチキだ尾尾を切さといふ
猫や狐じやアねへ侵の尾尾を切さのゞハア猫い
尾尾を切るゞも有ゞ生猫や狐ゞ多ゞふつゞく
続猫ゞ尾尾切ゞれるといふ不憂さうゞ乃
ゞまゞ分ら狐へのゞちんといふい侵然のゞだ


たゝかひて
負てずあつく
撃剣家


車かし負て
ものもらひ車夫
桂林舎

こんどは値が極ったふけ車の恵をいつさ所が一壹で
も壹四イヤ壹四五十銭と中〳〵大そふな事よそと
おるの人が来て私が生車をこなおしゝ文ヤ外ふが壹
壹五十五銭ぐらゐでおるとしあるされていどこでこり
外ゝといふ面へそれいよかからふそれあまび出掘よ
但るこゝ車い成丈寄羅あを掘へて畏り外さと
引更て甚こゝ車夫へ吐合一壹五十銭ツで渡し
て五銭ツ屁尾を切さのよが大きなものである

つゝでも百壹のお負二百壹の十ぐらゝ「ムまドやア
俵藤のちんざの「さゝよ「成ずどうめ〳〵るゆさきの
「ゆゝらめ〳〵事ゆしして壹て見といふもこが見くふ伝心
をせぬお義で安く川板の人方ごと酒為てあるさだ
「ハアそこで又一つ学問のきて〳〵るゆが有やさて蓑蛸
蛙の事を猫や狐といやさやそりようふおゆく
知〳〵ねへのゝ「お屁しゝくもねへが未義知仕ぶぶさ
「イヤこりやア大笑ひぶ三ゝゝでも知つて居る世ダガノ

まづそこらを「ゑ」くでもうろ柳ざゝレ川柳の悪ばれ

樹中ゞ物のるゝ風と因が雷

と迅況大きに出ぬ所ばざ分ら流行ふ者くれやし

たゞ藝妓や娼妓を猫や狐といぞふ〜ていふだらふ

「ま」いかも吉事悲歎の有るりでも有らく義ふい

猫をゑくのゞ薬実娼妓人を化すゞ商法そこで

狐や猫といのゞ「ハヲ」成極「ま」べて開化の世に

陽ひ強よ世間も出一新うゞ智あいある若い化て

出世〜智恵者きものいい名ときこえぶちこま

る時陽となつてそれい人宮汁でおい悪名新文

字でさくうつりかゝる世の中さ「ア」アさうこの孔シテこる

と狐や狐ばかりジャわくの「さ」ようむ〜い狐や

猫とさのみよいうなつてこの年稲荷ばや天と比

ばよく猫なすゞいふ者あつてこいつが虎の威をかり

て大きをふつた事でいつゞいつのゝふやらを事り

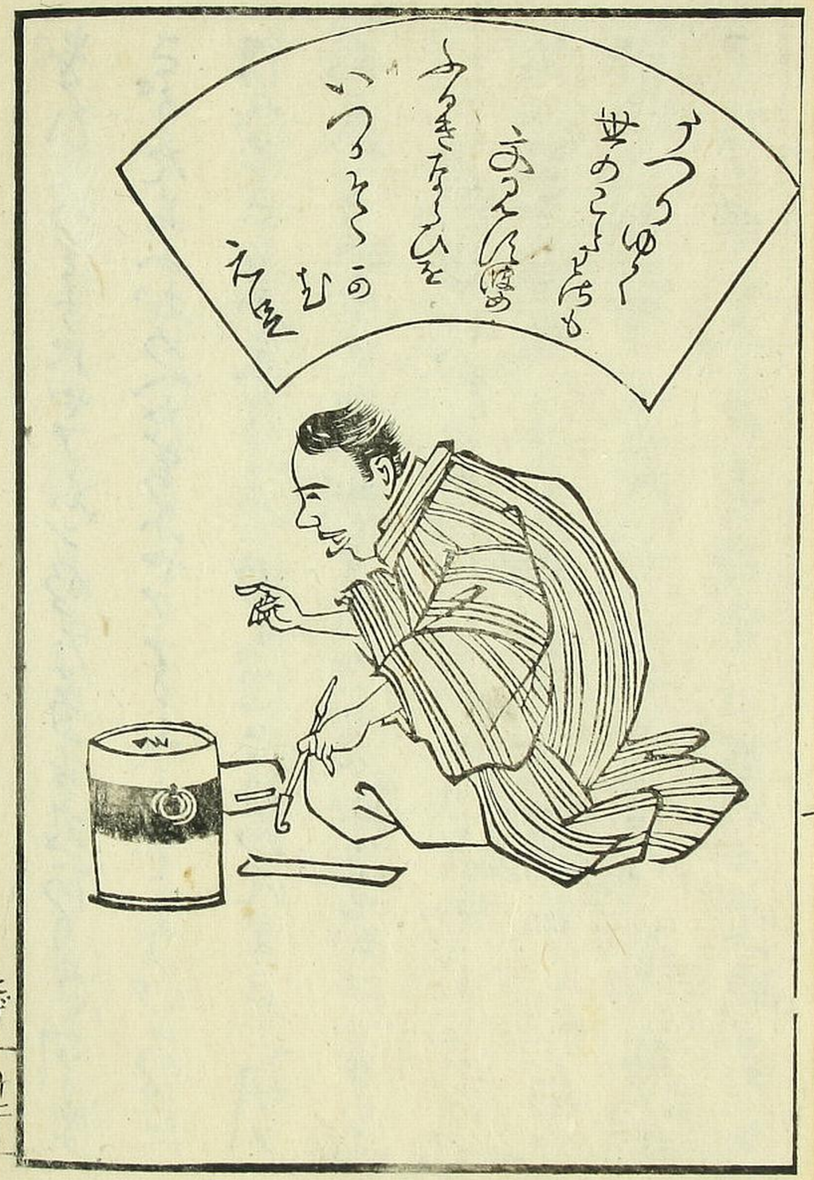
やした「ま」程くまゞかあるも「サレバサ」ずよい振舞

鷹これらい大きに名をるくなり中ゐも態態ぞ
名をとく世をきさてるのさ「さうくそこと思ふ奥
るるでも大きに運てふ運ぐ有ぐ程るんぞも孤子
おとらび坊主やゆ傍ぐるよい代るサ何のう用ょ立
だらふぐ一面なんと名も出ねへの「イヤ程も多波四
れさそふぐ考遣て辞遣も考さそだ「ハアそりやア
又なぜだらう「程ぐいあゆやア私ぞい拵病ょ癒れ
ぐ今り弁ゆく遣ぐ出ぐ彼い勤まり弁ぬ見非出発をと

稽退てて完く陽りていつてるゆやアやれくいゆの
役ゐぞを翔て必記さるるりい名い義ぐとも完修ゐ
おのれ金をのそ古のぐ膳ぐと酒流てゐるそふぐ
アハ〳〵「エ〳〵ほんとに吐イて居りやアやつぱり義
吐だの「そりやアそふだぐ文字ぐでもそゐ名く昔い石紙
金書で金の引文万事の偽書着とつりぐの役ニ考さ
性ニ紙如件宮ぐ出発ニ倉い統い以上ものさ時ゐるいろくる
文字さく覚へ記とゐり確実ふ陳ぐ也のかき義ゐ

只正月の正の字のいろ淫蕩をゑがいたれど
[illegible]
世に信じ難でも知て居る事だにそふ面白ろに
斗いくらも文盲多智だといつて甚だやア金にて
出来わく[illegible]の理をうまきまくて笑いれぬやう
学問[illegible]まくは有がたん文明開化とそふ
アこまるてれ[illegible]そふ云なきるがふン明大化も事に
まるてトいつまでけい何ンまよらび苟時の制[illegible]

ぎひろつとらにやアふン明な事が大切りさ「ソリヤ
さうだらふおめ〳〵たちふやアアイウエヲよりいろはに
ほへとごらふ云ゝ〜ふン明大化といつんまりぐ「ソフ
馬鹿よ云なさるぐらるる人いとめかくもおいろら等
にやアなるもはくうるぶしてかるる世ぐからふン明
大化だらふ「コレ云ゝ〜ふ吐〜ざの出てこせにやア云れ
ねへぜ「切論サ時に出〜ぐ二つに成さぐア搗〜車い
尺拍で有ゝ去年吉羽屋言島やが来ふ迄よりも



ちん狗煙草の
ゆきあやまりで
ぎり助ごの
あーを
こ形もてる茶面
吉閑子

ゑらかつて「そふよあれでおそ所の花魁女郎
所いい安宮氏といふ新にをぢぼさそこでイマノ
かるる世の中ふ隙て一自ひりやを
むりだもかけださもむ女郎かく恨嫉い
ひきぐに車曳る世の中
「成程おそれ(ゲチト)おくれぐのまぐ分手も
ロ(ごろ)隙者(さうし)ひりやにろ「有ともく安宮車ひき
なぐ式

ひけるなくゝ元手なぐ弁なぐくひけぬやつ
人力車かせぎやは稼ふも曳り出ー
「まづこいらだが足い孤のはなーでもなーチト時候
ふおくれるやうだ「さうよ甚よりやア彼のこんく
吸ーさ窮に前代未聞だやァねへ近代のこりので
有さがあやにくの雨でアノ代呂物を毋ろ衣の合羽色
みてうこせちんだりの道中とい識ふ惜いるりで
有さ「さうを全然(ぜんさい)この俗(ぞく)い世言の続(つゞ)で有さが

ヤハリ雨や化仕度でせう言と成さのごろこの日も雨こい
下愛さうサ「さうく」せめて夕方まで天気なら
乃中花ぐ降ごらふにるぐ降とんどふるくな空川
掾も呼へませんぐ「そのきこえません所のう一限
おいらぐ地ぐつくぜ東西くしと面相勧升るぜう
だんの狂題

ふぐるんてんぺん　狐系論門出の一落　尾ちう位敬の限

そりやぬ呼へませぬ空川さんおたすけやいこい

なるほどそこ国侠のにじわより襟袖口と仕度
してゑぐひふ連をさそひあひたんと路線も
肉譜でかしてきこの思てきぬ呼んの狐と
なるふとのおんぐのくの車は徳樂の乃を
陰をへて佛の徳に有物ン

「とんでふだらふ「アこりやアい猿也」のさわりざの
「ナアニ狐系りの陰よアハ〜〜」「イヤ中くおとしまく
「ソレニまさはぐ名んの僕でい継弼猫ト宝孫のまを

金糸で縫せたフラフ其外白ぎぬの幟（車夫（高
サ三ケ条の提灯を点ぜて先駆る車のまへ〳〵押さて
立場〳〵で二ツ一の手踊乃中お雛子で行つりでその
筋の艶でい客い戸長さんに咲〳〵と加ゲそれいなまり
流で申〳〵ことに生三ケ条ゐぞい四幅のそを人ふ
志ゝせるやゝ赤面ふ糸を乳女時ゝ止ゲ舞らふとにゃん
ともお河りいあゝ〳〵ゲコン〳〵口説論ゲ有て又合せ
み神さゝふゞ「ハアそりやア情〳〵いるゆで有さの志ゝ

生三ケ条といい行をぞさのだらふ「其いち三ケ条ゲ先
ゝ〳〵弱〳〵変せる義娼妓の自撰風呂変鬱ぐべく
接尾詞ちふきゆ才の事サ「ナルホドそりやア保ぞん
ものだゝ成丈いい嘗いちてもれ〳〵ぐらふそこで
二ケ条い「二ツ条い境内ふて蔚ちゝ手鉾いゝちらぞ
捨ひ捨帰るべゝゝざる事「ア夫でそりやーたなき
ぐれ〳〵の出立なゝ婚場で強さそふなゝをあれのく日本
ぐかゝ会志ゲゆゝ又例の人に咲イゝちゝ生人のゝふ

にやァ如何も委敷い知りませぬが偏偏に元嵐の作さ
のだそふざざそこで深く考へてこれが其年を一日月
照つけるとソレ焼亂よるそこで猫や狐が我を忘レ
嵐のあはひに通をぬしていざまが思ひとそれで
日年に仕作さらふといそれさがあまり根深の理解
でどふも青白ゲそう知りせぬとおひやーたが白で
施に投年なら日年が理の実様ざ「ヨヤおめ〳〵まさ
万遠さ事をいつぜ理の説様ろいそれど「ヘンお

めんこそそからわんのざ苗代作るもそや稼ぎ事
のイ、勘弟なるもを茅てそもそる世の中ざ而で已がの
理の実様といつさのハ日年と協協ざやァ入用も実分で
あゞるこのト十人前の十を二ロふーてみつゆこに理の「実
様万遠ひのうんよ興ぶけ〳〵ふ白ツうーハ理解ごの
アハ〳〵「コヲ義ひあさんなれりろくもねそりやァ
いつゞそこに日このふぬ一条ばりさ人よ蔚ちして業で
ふといふ年をなぜ事夫に拾ゼぬ多らふ「そやや

だれの系統だつて息才延命高美栄昌いのりは
屋の事ぞのゝ弱くとめに身よ腹を揉く
志ゆうといふんでな納さる身の年だからこせ養生を
のち腹ぶれちやァ迷惑だらふ「成程くァ豊川様
もいろ〳〵心配でゐくちやァなゝ孫への「そつよ
志が」神い見通」てチヤンシと口をなゞの上爰の口先
ゲ有さとよ「ハァ有難く事ごのダガ何といふ口先ぐ
ありやした「サレバサ吨松屋天様の口先やるかゝ

もう〳〵ぢ身の癖を放さふと弱つそれそりやァ叶
いぬさん〳〵ふいてんが神と人とは隙ゆそこで
こんどは系統に雨を降しさのだ雨ゲふつちやァ癖ハ
なをなせねゝといふ志ふせざとサアハ〳〵「イヤおりゝ
ろくも弱く志ひしまゝ三ケ条い「三ケ条い東夫の
弱く屋の用心第一のコツ「為日程ちりやァい東
の前で打くやられちやァ猫も孤もたまるものだ志ァ
なからふァハ〳〵イヤまぢ一つきゝてくコツゲありやした

トいふこんどは出てさちをなく袋ゆうぐ絵の
着物ばかりで紋付一向なうつさようぶぐ時の
激切でいらふが紋付もちつといりさうな
すのぶ「そりやア弱くをげよナゼといふよ今度
世間さんでいらたふ流行門を深てジヤ
アねへくそくれ開帳だそこで門いやめして
絵の出立といふ門つきでいなんおとひつきだ
「イヤさいりもやそりごむりご門ぶぐイヤまい

さしまおそ時をこしてかられを中記ゲきて
くの「ヲツト去ゆうちだゲ一ふくして第二回で
ゆしやせん

猫新
安門語笑話傳奇も表紙

010190525193